

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4079500114		
法人名	有限会社 良生会 糸田苑		
事業所名	良生会 グループホーム 糸田苑		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡糸田町 1698番地 1 (電話) 0947-26-4515		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年 7月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	22 人 常勤 16人, 非常勤 6人, 常勤換算 19人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 4階建ての 2階 ~ 3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	(リネン代) 840 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		860 円	

(4) 利用者の概要 (7月 23日現在)

利用者人数	24 名	男性	7 名	女性	17 名
要介護 1	6 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名		
年齢 平均	84 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲は田畑や公園など多くの緑に囲まれた、静かでのどかな地域であり、元クリニックであった建物を改装して開設されている。1階ではデイサービスを行い、ホームと合同での夏祭りなどの催しを通して、地域で暮らす高齢者との交流の場もたれている。施設内にあるパチンコ場やカラオケ、ゲートボール場なども自由に利用でき、利用者はゆったりとした居住空間の中で、趣味・好みを活かし思い思いにのんびりとした時間を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では2階3ユニットの家庭的雰囲気での変更、介護計画への家族の意向の反映、緊急時のマニュアル整備、避難訓練の実施、金銭管理台帳の報告などの改善課題が挙げられていたが、いまだ改善に至っていない項目が多く見られた。今回の評価をうけ、改善計画シートの作成をし具体的に取り組んでいくことで、課題の改善が期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で話し合の場を設け、意見を出し合いながら作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度実施されており、施設での活動内容や勉強会、利用者の状況などの報告を行っている。参加者は、地域の民生委員や福祉課の担当者、利用者の代表や家族の代表、職員代表と施設管理者が参加し、サービス向上のために話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	面会の多い家族とは頻りに職員がコミュニケーションをとり、意見を聞きながらケアへ反映させているが、面会の少ない家族に対して施設のほうからすすんで電話連絡などでの利用者の暮らしの報告や家族の意向の把握は行われていない。事業所から積極的に関わりを持ち、家族とコミュニケーションをとる事で、意見や苦情、不安を聞き取り、ケアや運営へ活かしていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域での敬老会や、年3回の環境美化活動への参加、近隣の方を招待して夏祭りを行うなどして、地域の人々と交流を行っている。今後はこれらの交流をさらに生かして、地域の人々も参加した避難訓練などを行い、更に連携を強化していくことが期待される。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	利用者にとって自分らしく居心地の良い生活を共に築き、喜怒哀楽を分かち合いながら、地域との関わりを持てるよう理念を掲げている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝朝礼時に読み上げることで全職員で共有し、毎月全員参加の勉強会で、理念の実践のためのケアに関する話し合いを行っている。		
2.地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での敬老会や、年3回の環境美化活動への参加、近隣の方を招待して夏祭りを行うなどして、地元の人々と交流を行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、職員全員で話し合っている。前回の外部評価を受けての改善がまだ不十分な点があり、改善計画シートも作成されていない。		今回の評価を踏まえ、まずは職員全員で具体的な改善方法について話し合い、計画立てて実施していくことが望まれる。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度実施し、活動内容や勉強会、利用者の状況などの報告を行っている。参加者は、地域の民生委員や福祉課の方、利用者の代表や家族の代表が参加し、サービス向上のために話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では担当者とお話しする機会を設けていない状況である。		苑のPRのパンフレットを設置してもらったり、頻繁に報告・相談することで考え方を共有し、よい関係を築いておくことで、連携を強化することが出来る。運営推進会議以外でも積極的に関わりを持つことが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対する地域権利擁護事業や成年後見制度の研修は行なわれておらず、それらに対する理解も乏しい。また、家族への説明もされていない。		家族にいつでも説明できるようパンフレットを準備したり、職員の制度に関する理解を深めていくことが必要となる。職員に対し定期的な研修や勉強会等を開催することが求められる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の様子を記載した苑だよりを郵送している。ホームのほうからすすんで面会の少ない家族へ電話連絡などはおこなっていない。金銭管理については預かり金が無くなったら連絡し請求しており、金銭管理の台帳は作っていない。		苑だよりと一緒に利用者一人一人の暮らしぶりを記した手紙を同封したり、面会の少ない家族へ職員から積極的に連絡を取って関わることで、協力体制を強化できると期待される。また、金銭管理台帳を制作することは金銭の用途を明確にし金銭トラブルを防止するためにも重要である。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加もあり、面会時にもその都度家族と関わり意見をもらうようになっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は常に全員で利用者に関わり、全員で同じケアができるようにして、利用者への影響は最小限に抑えるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用を決めるときは、性別や年齢、経験より先その人の介護への熱意や思いを重視している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>月1回の勉強会で、職員全員で話し合う機会を設けている。また、気が付があればその都度職員同士話し合っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修を頻繁に受講し、研修後は勉強会で報告したり記録に残して職員全員が閲覧できるようにし、情報を共有している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列のグループホームやデイサービスが近所に数軒あり、合同会議や合同の勉強会で情報交換したり、合同で夏祭りを開催するなどの活動を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>建物1階にあるデイサービスの利用者が入居するケースが多く、日頃からデイサービスとの交流もあり行き来もできるので、馴染みながらサービス利用されている。体験入居やホーム内の見学説明もその都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に食事の準備や後片付け、洗濯物の整理などの生活行動や、野菜作りなどの趣味を一緒に行うなかで、生活の知恵を学ぶなど共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の利用者との関わりの中で思いや希望を聞きだし、日々の記録に残しできるだけ希望に副うようとしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意向は入所時に確認しケアプランに反映させているが、入所後に面会に来られたとき、職員と話したことなどの記載がなく、モニタリングの際に生かされていない。また利用者本人の思いの記載も少ない。</p>		<p>本人、家族が言われたことは、些細な希望であっても細かに記載することで、モニタリングの際の参考に繋がる。家族や本人の意向を重視した個別的な介護計画書となるよう配慮し、職員全員で改善の取り組みを期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは3ヶ月に1度行い、職員全員で話し合い計画の見直しを行い、状態の変化があればその都度見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への支援はもとより 近隣の高齢者が状況に応じてデイサービスも利用し、グループホームの機能を強化している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として、近所の町立病院を利用しているが、本人の希望の病院があればそちらへ通院が可能で、通院の付き添いも行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時や、状態変化があればその都度、利用者や家族の意向があれば聞き、希望を反映するようにしている。ホーム内での看取りはまだない。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保について、日々の関わりの中で職員同士で話し合い、注意を払っている。利用者一人ひとりの記録ファイルがスタッフルームの窓際の、面会者や利用者の手の届く場所にあり、スタッフルームに常に職員がいるわけではないので、個人情報が守られているとは言いがたい。		記録ファイルは常に職員の目の届くところにカート等で移動式にしたり 必要の無い時は鍵のかかるロッカーに入れるなど、他人に見られないように工夫することが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のプランは大まかに決まっておき、職員の都合になりがちな部分はあるが、その中でもできるだけ利用者の希望を聞き、それに合わせた支援を行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の食器は落とすと危険であり、重い食器が持てない利用者が多いため、軽くて割れにくいメラミンの食器を使用しているが、湯のみなど一部のものは利用者の持ち込みのものを使用している。また、できる方は一緒に食事の準備、片付けも行っている。メニューにも利用者に希望を取り入れるようにしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、利用者の希望に合わせて午前か午後に分けて行っている。夜間の入浴は、夜勤職員が1名のため困難な部分があるが、限られた時間でもできるだけ希望に副えるよう配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	パチンコ遊技場やカラオケ、ゲートボール場が完備され、希望者は自由に利用できる。他に、ベランダでの野菜作りや、ホーム内の季節の飾りを考えたり、利用者はそれぞれ好きなことをして過ごされている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、一緒に買い物に行ったり散歩するなど、戸外へ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていない。1階がデイサービスであり、もし利用者が1人で1階に下りられても職員の目が届きやすい環境である。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は災害時の搬送の研修を受けているが、実際に避難訓練は実施されていない状況である。		早急に昼夜を想定した避難訓練の実施が望まれる。また、地域の人々にも参加してもらい、協力体制を築くことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理スタッフに栄養士がおり栄養バランスやカロリー等管理されている。病気のある利用者でも塩分や水分、カロリーを考慮した食事が提供されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前クリニックであった建物を使用しているため構造は家庭的とはいえないが、壁に季節のものを飾ったり置やソファ、水槽を居間におき、ドアを木目調にするなど工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自分の使い慣れた家具、好みのカーテンなどを持ち込み、壁も自由に絵を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。		